23rd

新響

新交響楽団
第23回定期演奏会



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA
23rd Subscription Concert

新交響楽団第23回定期演奏会

指揮　小林研一郎
Conductor　KENICHIRO KOBAYASHI
ピアノ独奏　遠藤郁子
Piano Solo　IKUKO ENDO

I　交響曲第36番　ハ長調，K.425 “リンツ”……ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト
SYMPHONY No.36 in C major, K.425 "THE LINZ"……Wolfgang Amadeus Mozart

第1楽章　アダージョ――アレグロ・スピリトーソ
1st Mov.：Adagio――Allegro spiritoso

第2楽章　ポコ・アダージョ
2nd Mov.：Poco Adagio

第3楽章　メヌエット
3rd Mov.：Menuetto

第4楽章　プレスト
4th. Mov.：Presto

II　ピアノ協奏曲　第4番　ト長調，作品58……ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
CONCERTO FOR PIANO AND ORCHESTRA No.4 in G major, Op.58……
… Ludwig van Beethoven

第1楽章　アレグロ・モデラート
1st Mov.：Allegro moderato

第2楽章　アンダンテ・コン・モート
2nd Mov.：Andante con moto

第3楽章　ロンド，ヴィヴァーチェ
3rd Mov.：Rondo, Vivace

III　幻想交響曲，作品14……エクトル・ベルリオーズ
SYMPHONIE FANTASTIQUE：Épisode de la vie d'un artiste, Op.14……
…Hector Berlioz

第1楽章　夢と情熱
1st Mov.：Rêverie――Passione

第2楽章　舞踏会
2nd Mov.：Un bal

第3楽章　野の風景
3rd Mov.：Scène aux champs

第4楽章　断頭台への行進
4th Mov.：Marche au supplice

第5楽章　ワルプルギスの夜の夢
5th Mov.：Songe d'une nuit de Sabbat

1972年4月2日(日)午後6時半
東京文化会館大ホール

—— 指 揮 者 ——

小林研一郎

Ken-ichiro Kobayashi

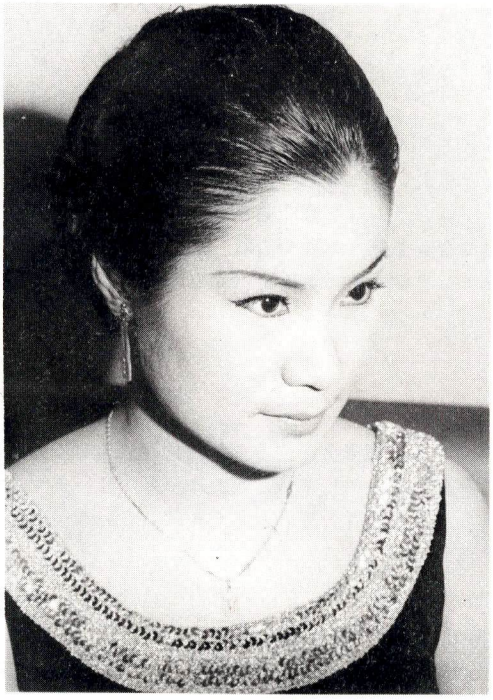
1940年　福島に生れる。
1970年　東京芸術大学作曲科卒業後、同指揮科卒業。作曲を石桁真礼生、指揮を山田一男、渡辺暁雄の各氏に師事。
　　第２回民音指揮者コンクールで奨励賞受賞。
1969年　群馬交響楽団定期演奏会を指揮。
1971年　東京交響楽団副指揮者。
現　在　日本指揮者協会所属。東京交響楽団指揮者。東京音楽大学指揮科講師。



昨1971年夏、新交響楽団指揮者に就任。サマーコンサート、薬唱連の第九演奏会で新響を指揮し好評。

小沢征爾に心酔し、目標ともする彼の全身で表現する指揮振りは確固たる音楽性に満ち、オーケストラと聴衆をぐんぐんひっぱって行く。

これがようやく音楽界に認められつつあり、この５月、東京交響楽団でショスタコービッチの第５交響曲等を指揮することになっている。



—— ピアノ独奏 ——

遠藤郁子

Ikuko Endo

1947年　ピアノを始める。
1959年　第１回リサイタル開催。井口秋子氏に師事。
1963年　東京芸術大学ピアノ科入学。
1964年　海外派遣コンクール日本代表。安宅賞受賞。
1965年　第７回ショパンコンクールにて、ポーランド評論家連盟から、特別銀賞受賞。
　　ステファンスキ・ステファンスカ夫妻に師事。ポーランド各地でリサイタル及びオーケストラと共演19回。
1966年　７月アルトウール・ルビンシュタイン来日の折、テクニックと音楽性を絶賛される。
1967年　ポーランドで、ショパン忌の記念リサイタル等、リサイタル11回、オケとの共演５回、その後ソビエトに招かれモスクワなどで８回のリサイタル、共演を行う。
1968年　ショパンの夜想曲全曲のレコーディング。
1970年　10月第８回ショパンコンクール８位入選。
1971年　４月イイノホールでリサイタルを行う他、N響、京響、大フィル等と共演。

曲目解説

交響曲第36番ハ長調，K.425“リンツ”　モーツァルト

小さな子供の弾くモーツァルトのピアノ曲は何と無邪気なほほえましさをもってわれわれの心を慰めるのだろうか。同時に「レクイエム」の、あの死の苦しみと魂の悶えはどうだろうか。「K.545」ハ長調のピアノ・ソナタが、弾く人によっておどろくほど違う様相を呈することを心ある人は感じるであろう。子供が無心に純に弾いても美しいこの曲が、ある種の名ピアニストの手にかかると涙にぬれた一輪の花となり、憂愁の影が射す。同じ「レクイエム」も女声部にボーイズを使用し、典雅に柔かく演奏すれば、モーツァルトの他の宗教音楽とあまり変らなくなってしまう。

実にモーツァルトこそ永遠なる謎の存在だ。無邪気な微笑と、その影にかくされた救いようの無い寂寥、魂の慟哭と、その苦しさのゆえに聞く者をさいなみつつ、一足先に立直って優しく慰めてくれる変り身の速さ。そこには悪魔と神の同居があり、人間と天使の交錯がある。同じ曲でも演奏者によって種々の本質を具現するが、未だその全部の秘密を解明し得た人はいない。

1783年作のこの曲はいわゆる〈ウィーン交響曲〉の最初を飾る作品である。この年の夏、モーツァルト夫妻はザルツブルク訪問の帰途、リンツに立寄ったが、トゥン伯爵から厚いもてなしを受け、さらに演奏会を依頼された。ちょうど親友ミハエル・ハイドンから最新作の「ト長調交響曲」を贈られたところだったので、モーツァルトはそれに着想を得、わずか4日間でこの「リンツ」と呼ばれる交響曲を書き上げてしまったのである。

第1楽章　アダージョーアレグロ・スピリトーソ　ハ長調　$\frac{3}{4}$拍子ー$\frac{4}{4}$拍子。序奏部を伴うソナタ形式。

ウィーンに定住したモーツァルトはヨーゼフ・ハイドンの影響を強く受けたが、それは彼の交響曲として初めてつけたこの序奏部にも現われている。そして「リンツ交響曲」全体が優雅なモーツァルト風よりは素朴なハイドン調である。荘重な序奏部に続く主部は最もハイドンの感じが濃く、力強く躍動的で、行進曲のようなリズムにもそれは明らかだ。

第2楽章　ポコ・アダージョ　ヘ長調　$\frac{6}{8}$拍子。ソナタ形式

第1主題の音型はいかにもハイドンを想わせる。展開部における低弦とファゴットによるスタッカート音型は有名だが、この楽章もまたモーツァルトのエレガントな風情やたおやかさを求めるとやや期待を裏切られよう。

第3楽章　メヌエット　ハ長調　$\frac{3}{4}$拍子。

この交響曲の魅力はメヌエット以後にあるようだ。楽しげで軽やかな主部とワルツのようなトリオが聞く者を迎える。

第4楽章　プレスト　ハ長調　$\frac{2}{4}$拍子。ソナタ形式。

展開部にハイドンの書法が感じられるが、それと共にモーツァルトの輝きや味わいがいたるところにまきちらされた傑作で、コデッタ直前に現われる16分音符が連続した音階はまさにモーツァルトならではの魅力がこぼれ落ちるのである。　（宇野功芳）

ピアノ協奏曲第4番ト長調，作品58　ベートーヴェン

1808年12月22日、アン・デア・ウィーン劇場で開かれることになった演奏会のために、ベートーヴェンは厖大な費用をかけて準備をすすめた。しかし、それにも拘らず、演奏会は徹底的な不入りと不成功とを喫したのであった。ちょうど同じ夜、ウィーンの未亡人と孤児のために毎年開かれる慈善演奏会がブルク劇場で催されていたことも災いしたらしい。

プログラムは交響曲第5番、第6番、合唱幻想曲、独唱や合唱を伴う頌歌や讃歌、加えて、アリアやピアノのファンタジーまであるというものだった。

新響・音楽の広場①

ステージにあがったオーケストラ

最近、蝶ネクタイに燕尾服という19世紀からそのままのスタイルで演奏会をやるのは時代遅れもはなはだしいという話がある。戦争中、ナッパ服にゲートルを巻いて演奏したとかしないとか、昨年暮にはハチマキに腕章というストスタイルとか変りだねもあるが、100人からの人が役者の芝居と考えればいろいろ規則や習慣もあるもの。演奏会場に行く楽しみは、もちろん演奏そのものが一番であるが、並びかたや、そのオーケストラ特有のスタイルがあり、視覚的興味も見のがせない。まずライトがついて各奏者が入場し（コンサートマスターは最後になるオケも多い）音合わせが始まる（オーボエでなくチューナーですることもある）。新響のAの音は444Hzでありプロのオケと較べても高い（ベルリンフィルと同じ）。演奏中、弦楽器の弓使いがバラバラになることがあり、間違ったと思われるかもしれぬが、作曲者の指示の場合が多い。念のため。

曲目解説

ピアノ協奏曲第4番は、そのうち第1部の終わりにおかれていた。この協奏曲は、これまでロプコヴィッツ公邸で私演されただけで、公開の演奏会では発表されていなかったというだけでなく、この夜のプログラムのうち器楽の作品は、なんと全部が初演であった。そして、その盛り沢山なプログラムの馬鹿げた長さは、ベートーヴェンの賞讃者でさえも嘆かせるに大分なものであった。演奏がうまく行かなかったことも、悲運に拍車をかける結果となった。それから永い間、ピアノ協奏曲第4番は演奏される機会を失なった。そして、1836年にメンデルスゾーンが、これを復活再演したときは、ベートーヴェンが世を去って、すでに9年も経っていた。その演奏を聞いた聴衆の熱狂ぶりは、シューマンによって伝えられている。

「われわれは、これまでにない喜びを味わった。そして身動きせず息をころして席に座っていた。——少しでも雑音をたてるのを恐れて……」

ピアノ協奏曲第4番が表現する世界は、ドラマティックな第3番とも英雄的な偉容をたたえた第5番とも違うより控え目な親しさに溢れている。これは、すでにピアノ協奏曲第2番において示されたものと共通している。そして偶数番号のつけられた、この2曲の内向的性格と、いっぽう奇数番号の外向的性格との間に、われわれはベートーヴェンが与えた絶妙なコントラストを発見する。

しかし、反面、ベートーヴェンにおける偶数番号の協奏曲は、優しい性格を持っているために、不当にも見過ごされる運命をはらんでいる。けれども、第4協奏曲では、その親しげな口調のなかに、実は大胆不敵な冒険が含まれている。そして、それらが決して外面的なセンセーションや、大向うを唸らせる圧倒的なものを狙っていないところに、この作品の姿勢を感じとることが出来るのである。

オーケストラの序奏部が、まず演奏されて、ソロの入る主部の提示部を導く、という古典協奏曲の典型的な形式は、第3ピアノ協奏曲に、ひじょうにシンフォニックな位置づけに於てすでに飛躍の兆を見せたものであった。ところが、この第4番では、ピアノが5小節からなる旋律的素材の上に主部のアレグロの支柱を打ちたてることによって、第1楽章が開始される。そして、オーケストラはそれを続け、その先導者にしたがって提示部を完成させてゆくのである。しかし、この開始は極めて自然な語りかけのうちに進められるので、これがベートーヴェンの試みた漸新奇抜な手法であるとは容易に気付かぬほどである。そして全ては創意あふれる展開と、一篇の詩とでも例えたいような、しかも緊密な構成のうちに融け合っている。

僅か72小節しかない第2楽章では、独奏ピアノに与えられた精神的な美しさが印象ぶかい。形式はマンハイム楽派の影響を感じさせる。やや古めかしいもので、ピアノのパートの冒頭には、アンダンテ全部を通じて、ピアニストは弱音ペダルを使用し、再にPed.のところでは普通のペダルを使うように、但し書きが添えられている。弦だけのオーケストラは、はじめのうち尊大ぶったフォルテとスタカートで、ピアノを威圧する。しかし、ピアノの淑やかさのまえに、オーケストラの表情も和らいでくる。全ては、一つの世界に同化し、静寂の彼方へと歩み去る。そして最後の囁やくように鳴りひびくピアノの音の中からオーケストラは第3楽章ロンド・ヴィヴァーチェのテーマをはじめる。この手法は1806年に書かれた〈ラズモフスキー〉四重奏曲第1番の、第3楽章への移行に、その同じような例を見ることが出来る。

ピアノ協奏曲第4番は1805年に着手され、翌年にかけて作曲が進められている。ノッテボームは、この曲のスケッチが交響曲第5番と同じ見開きの中に含まれること、また〈運命〉の有名な動機が、この協奏曲のなかにも含まれていることを指摘している。（宇野功芳）

新響・音楽の広場②

オーケストラの配列

オーケストラの配列はどこでも、いつでも同じだと思ったらそうではない。将棋の駒のように定位置があるのでなく、要は指揮者が指揮しやすく、プレーヤーが奏きやすく、結果として快い音楽が演奏会場の聴衆に聞こえればよいのである。そうはいっても、オペラやバレエの伴奏の時、オーケストラピットの中で狭い場所の制約上（客席から見て）弦楽器が左に、管楽器が右にと不自然な並び方をする以外、大まかな原則はある。弦楽器が指揮台をぐるりと囲んで丸く並び、その後方に管打楽器が山台を使ってだんだん高く並ぶというのがそれである。各オケによって一番違うのは弦楽器の並びかたで、昔は第1Vnと第2Vnを左右に配していたが、アンサンブル上具合が悪いので今は全んど採用されないがベートーベンの曲ではこの配列を明らかに意識している。新響も時々変えるが、今は内声部のアンサンブル上第2VnとVlaを内側に配している。

曲目解説

幻想交響曲，作曲14　　ベルリオーズ

ロマン・ロランは、こう書いている。

＜もし、天才というものが創造力だとするならば、これほどの天才は、世界中をさがしても、わたしは4人か5人をこえるとは思わない。そして、ベートーヴェン、モーツァルト、バッハ、ヘンデル、ワーグナーという名をあげた場合、わたしは音楽芸術という点で、彼をしのぐものはひとりとしていない、否、彼に匹敵するものすらひとりとしていないとこを認める。――彼は音楽家ではない。音楽そのものなのだ……＞

この賛辞にあふれた言葉は、けっして誇張ではない。その誇張でない証拠を、これからつぶさに、この《幻想交響曲》のなかに聞こうではないか。

ベートーヴェンの交響曲から受けた強烈なショックは、彼の心に鋭い爪をたて、スミッソンに対する激しい＜愛憎＞は、彼の創作欲に妖しい火を点じた。こうして、彼にペンをとらせたのが《幻想交響曲》だったのである。

彼がローマ大賞を獲得した1830年の2月、彼は友人に宛ててこんな手紙を書いている。

＜わたしは、いま交響曲を書きはじめようとしています。そのなかに、わたしの情熱がさまざまなかたちで展開されるでしょう。それは、すべてわたしの胸のうちにありますが、まだなにも書いておりません。もうすこし待ってみてください＞

ところで、この型破りな交響曲を聞く場合には、前もって、その特徴を知っておく必要がある。

第1には、音楽史上、真の意味での標題交響曲は、この作品がはじめてであるということだ。むろん、これより以前に標題交響曲に近い作品はなかっただけではない。たとえばベートーヴェンの《田園交響曲》がそうである。しかし、本格的なものは、この作品をもって嚆矢とする。第2には、固定観念 idèe fixe をみごとに用いたことだ。この固定観念というのは、ちょうど交響曲でいう主題のようなものが、たったひとつの楽章のみで消え去ってしまうものではなく、全楽章を通じて用いられ、各楽章を有機的に結びつける役目をはたす。ここでは＜恋人の旋律＞がそれである。

第3、第4の特徴は、伝統的な古典交響曲のスタイルを完全に打ち砕き、全体を5楽章構成としたことと、楽器編成が変則的なうえにオーケストレーションがすこぶるはなやかなことである。＜自伝＞には＜この大きな曲を演奏するには、劇場つきの楽員のほかに、約80人の楽員を雇わなければならなかった。したがって、ブロックの楽員を合わせると、全部で130人のオーケストラになった＞と書いてあるが、この数字は、一応、信じてよいと思う。

フルート2－1本はピッコロと持ち替え　オーボエ2－1本はイングリッシュ・ホルンと持ち替え　クラリネット2－1本は変ホ調クラリネットと持ち替え　ファゴット4、ホルン4、コルネット2、トランペット2、トロンボーン3、テューバ2、ティンパニ2対－第3楽章の奏者は4人、第4、5楽章の奏者はふたり大太鼓、シンバル、鐘－ベル、ピアノ代用もよし　ハープ2、弦5部。

この曲のスコアには、まず、つぎのような文章が書かれている。

＜恋に狂い、人生に飽きた若い芸術家が、阿片を飲んで自殺をはかる。しかし、毒薬の分量は致死量に達せず、その重苦しい眠りのなかで、彼は異常な幻影をつぎと見る。そして、その幻影のなかに恋人の旋律があらわれ、その旋律は、固定観念のように、あらゆるシーンに登場する＞－要約

この若い芸術家というのは、むろんベルリオーズ自身を指し、恋の相手というのはスミッソンにほかならない。なお、この曲は、＜ある芸術家の生活の挿話＞と題され

新響・音楽の広場③

音楽は何で聞いているか――ＮＨＫの放送世論調査から――

昨年ＮＨＫの放送世論調査所が全国から無作為抽出で選んだ10才から69才までの国民3600人に行った調査結果である。調査の目的はＦＭ放送の普及度を調査することが主目的だったらしいが、この数字を聴視者の側から判断すれば、皮肉にもＮＨＫの放送政策の誤りが指摘できるのである。すなわち、ＦＭを買う人は音楽を聞きたい人が買う訳であるが、ＦＭの音楽番組が少いために逆に中波のラジオでその不足を補う人が非常に多いということである。これとは別に実際に出かけて缶詰めでない生の音楽を聞く人がなんと少いことか。クラシックのデータが知りたい。

音楽をきく方法（数字は%）	全体	ＦＭ受信機設置者
普通のラジオ	39.0	47.3
ＦＭ放送	19.1	33.8
レコード	32.1	45.1
テープ	12.9	17.3
テレビ	83.7	81.6
演奏会・実演	8.8	10.5

ているように、ベルリオーズ自身の伝記的作品の第1部をなすもので、第2部は＜レリオ＞である。

第1楽章＜夢と情熱＞

＜彼はまず恋人とめぐりあう前に抱いた、あのやるせない気持や、漠とした情熱、あの時ならぬよろこびや憂うつを感じる。ついで、恋人と会った瞬間に点火された熱い恋情、ほとんど狂気に近い苦悩、しかし、前のように静まり、最後に宗教的な慰めとなる＞

導入部。ラルゴ、ハ短調、¼拍子。

主部、アレグロ・アジタート・エ・アパショナート・アッサイ、ハ長調。

第2楽章＜舞踏会＞

＜彼は、にぎやかなお祭りさわぎのような舞踏会で、ふたたび恋人の姿を見る＞

ワルツ。アレグロ・マ・ノン・トロッポ　イ長調⅜拍子。

第3楽章＜野の風景＞

＜夏のある夕暮に、若い芸術家はふたりの牧童の奏する牧笛に耳をかたむける。静かな自然のたたずまい。そよ風に樹々はささやき、未来への明るい希望に、彼の心はいっぱいにふくらむ。……しかし、そのとき恋人の姿がうかび、彼の胸は不吉な予感にわななく。もし、彼女が自分を裏切ったらどうしよう！　やがてふたたび牧笛が聞こえてくるが、もうひとりの牧童はそれに答えようとしない。焦燥、日没、遠雷、孤独、そして静寂……＞

アダージョ、ヘ長調、⅝拍子。

第4楽章＜断頭台への行進＞

＜嫉妬に狂った若い芸術家は、夢のなかでいとしい恋人を殺してしまう。彼は死刑を宣告され、刑場にひかれる。その行列の行進は最初は荘重で陰うつに、ついで喧騒で明朗に響く。そしてギロチンが目前に迫ったとき、ふたたび固定観念があらわれる。いうなればこれは、死の打撃を打ち破ろうとする最後の愛の追憶なのである＞

アレグロ・ノン・トロッポ、ト短調、¼拍子。

第5楽章＜ワルプルギスの夜の夢＞

＜若い芸術家は、夢のなかで魔女の饗宴に列席する。

妖怪たちは、彼を弔うために集ってくる。怪しげな鳥の声、嘆息、ゲラゲラ笑い。と、そのとき、固定観念があらわれるが、それはかっての気品を失い、グロテスクで軽薄な舞曲となっている。いとしい恋人は魔女となって饗宴の席につく。歓迎の叫び、弔鐘、《怒りの日》の道化じみた賛歌、魔女のロンド、そしてこの《怒りの日》とロンドとが同時に奏されて熱狂的になる＞

ラルゲット、ハ長調、¼拍子。弱音器をつけた弦のトレモロが一種異様な雰囲気をかもしだす。フルートとオーボエに怪鳥の声、やがて、アレグレット、⅝拍子に転じると、クラリネットで、魔女に変化した恋人の旋律があらわれる。ついで熱狂的なアレグロとなり、しばらくすると、遠くに弔鐘が鳴り、ファゴットと2本のテューバに荘重な＜怒りの日＞の旋律が奏される。この怒りの日というのは、16世紀ごろから使われている教会旋律でリストも＜死の舞踏＞のなかで使っている。

こんどはチェロとコントラバスに無気味な＜魔女のロンド＞が奏されフーガ風に発展する。

最後は、＜怒りの日＞と＜魔女のロンド＞とのかけあいであるが、ここでは弓を裏返しにして、木のほうで弦を打つコル・レーニョ奏法に注意されたい。こうした奏法を大胆にとりいれるあたり、やはりベルリオーズだ。締めくくりは、全合奏による熱狂的な乱舞で、その色彩的なオーケストレーションは絶妙である。(志鳥栄八郎＝抄)

新響・音楽の広場

「オーケストラの名曲500曲」のリストさしあげます

このたび新響では、古今のオーケストラ曲2500曲の中から新響が過去に演奏した曲、これから演奏すべき曲、難しくて演奏できないかもしれないがオケマンとして知っているべき曲として、500曲を第一次候補として選びタイプ印刷しました。レコードライブラリー、スコア購入の手引に、音楽鑑賞の参考にどうぞご利用ください。《申込》左記宛、返信20円切手同封、登録会員、非会員の区別、年令職業明記。

"新響・音楽の広場"原稿，希望を募集します

今回から新企画としてプログラムに登場しました。面白い話題やこんなことを知りたい、書いてもらいたいということがありましたらどしどしお寄せ下さい。寄稿の場合は400字程度までにお願いします。寄稿採用分には新響の演奏会ご招待。

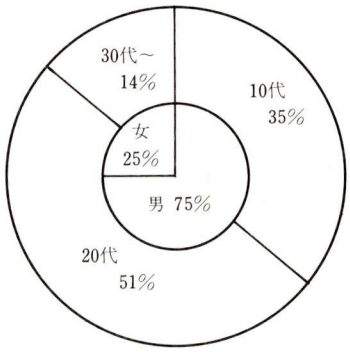
新交響楽団事務所　TEL 357-5255(但し平日午後)
〒160 新宿区須賀町14　大湊ビル

特集　新響の聴衆 ——登録会員へのアンケート結果から——

本年1月に行った新響の登録会員1300名へのアンケートを集計したところ、面白い結果がでたのでご紹介しよう。

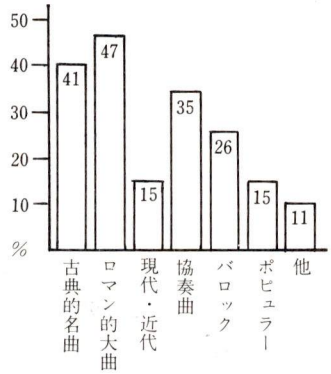
I 20代以下で86%，男性が75%

回答総数は丁度300であるので、ある程度新響の会員全体を代表していると見てよいだろう。それによれば年令別では、ある程度うなずけるが男女別の結果は意外だった。しいて分析すれば、男性が2枚申込んで女性をさそって聴きに来るということがあるのかもしれない。会場ではそれ程の差はみられないから。



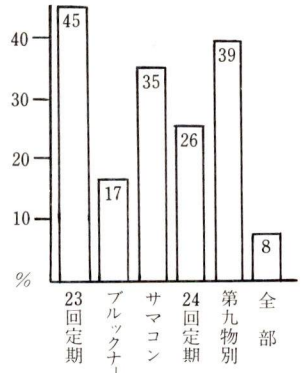
II 演奏曲目は名曲路線を希望

聴衆が若い年令層が圧倒的であることからすれば当然の結果であるとも言えよう。事実、マーラーやショスタコビッチを演奏した時の売れゆきは極端によくなく、プレイガイドでも同様な結果となっていることがこれを裏付けている。バロックブームとかでバロックを希望される方が26%もあるが、新響の性格上（演奏会数が少く、しかも沢山のメンバーを出演させねばならない）難しいことをご理解頂きたい。



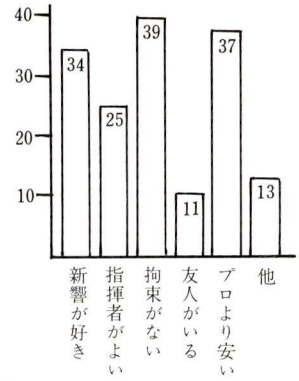
III 第九とサマーコンサートが一番人気

今回の23回に来聴希望が1番多いのは回答者中、百名様ご招待としたため。結果はIIからも推測できるが第九の根強い人気はアマチュア団体とて音楽界と同じ状況である。ここには表わせないが30代の男性が、第九を50%希望していたことが注目される。



VI 拘束がない，プロより安い……会員の動機

まず、グラフに表われていない統計的事実を述べると、拘束がないが20代では44%、30代～では46%、プロより安いからが30代～て46%とそれぞれ平均より10%近く多いことが注目される。若い人や学生の方が可処分所得が多いためか、30代の人がより現実的なのか、面白い現象である。

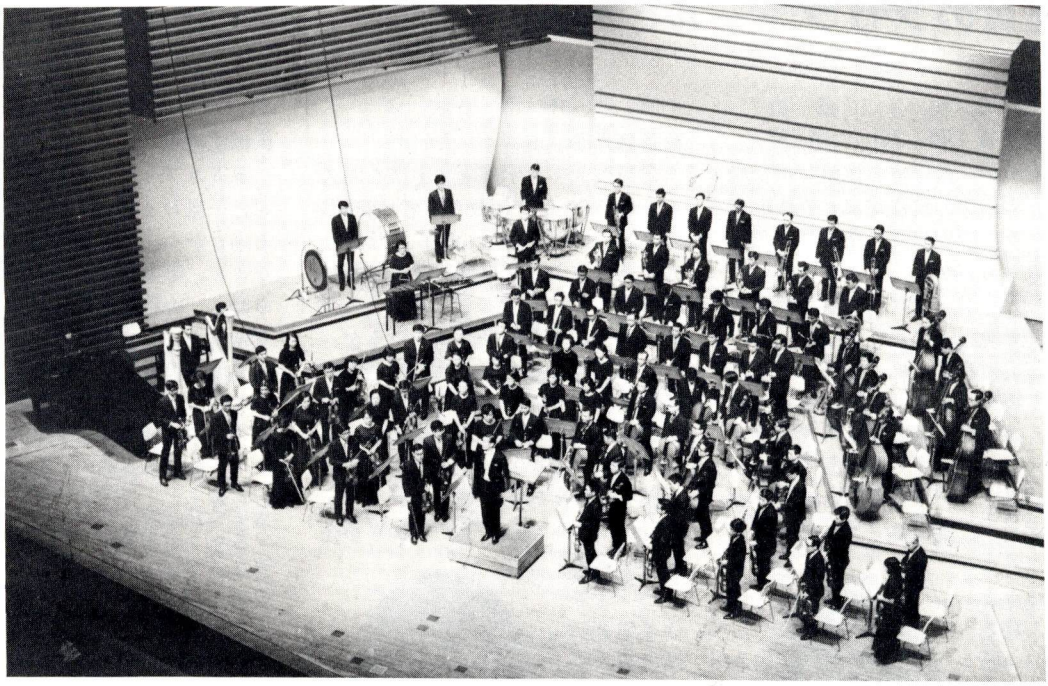


「指揮者がよい」（すなわち芥川也寸志氏のこと）は第4位でアンケート結果では低くなっているが、数少い客演指揮者にお願いした時の経験から言うとプレイガイド等の売れ行きは目に見えて少い。このことから考え、また団員がチケットを売る時、「芥川也寸志が指揮しているオーケストラです」と言うのが一番通りがよいことを考えると、実は芥川氏の著名度が一番きいていることは動かしがたい事実なのだと言えよう。

それはさておき、新響が嫌いで聞きに来て下さる方はいるはずもないので、"拘束がない"、"プロより安い"が1，2位である結果を、会員の方々の現実的な理由と冷静に受けとめれば、それは逆に新響がプロと比較しても、値段と演奏の質の相対価値からみて商品になり得る、又なっていると解釈することもできる訳である。だとすれば新響の社会的、音楽的な役割は重大で、別のことから、新響の聴衆は、外国のオケやN響を聴きに行く自称高級な人達とは一致しない独特な層であることがわかっており、この人達の要望に応える必要があると言える。

V その他の意見，希望

●アマチュアの域を越えた演奏を期待する●毎月定期演奏会を●家族と一諸に安くてよい演奏がきける●勉強になるから●全員に活気があるから、あまりよくないプロは活気がないようだ●舞台の上と下の関係が非常にやわらかく愛着を感じる●アマチュアの趣味以外の何物でもないこの感じが気にいった●芥川さんの中学の4年先輩のファンです●プロよりおもしろい●忙しいサラリーマン生活の中で音楽が生甲斐●45年暮の第九を初めて聞いて以来演奏会毎に上手になってゆくのが楽しい●アマでは一番まとまっている●早々と賀状有難う、見直しました。皆様一生懸命の演奏、和やかな雰囲気、心暖るる音楽会です。今年も素晴しい演奏をきかせてください。



新　交　響　楽　団

新交響楽団、新響は名前こそN響の前身と同じですが純然たるアマチュアのオーケストラで、名簿に見るように、サラリーマン、学生、主婦など、音楽を職業としない120名の団員から構成されています。

週1回土曜日、東京文化会館地下のリハーサル室での練習を基礎として、月々 400円の団費と、演奏会の収入による独立採算で運営されています。

昭和31年創立以来の常任指揮者芥川也寸志氏の献身的指導によって、現在日本で望み得る最高レベルのアマチュアオーケストラとされており、42年秋の訪ソ旅行、44年秋の沖縄九州旅行という華やかな活動がある反面、週1回2時間半の練習、実質的には何の拘束もない任意団体であるという絶対的な制約をうけているため、累積赤字をかかえて常に解散の危機に瀕しているといっても過言ではないでしょう。

新響を存続させるものは、一諸にアンサンブルを創るという一点にしかありません。2～3回の練習で演奏会をもつというプロのオーケストラにはできないような、すみずみまで奏きこんだ演奏をモットーとし、毎週の練習自体をも一つの目的とする緊張と充実が団員の共通の目標となっています。

新響のもう一つの目的は、オーケストラを団員の自己満足としてでなく、できるだけ沢山の人に聴いてもらいたいという演奏団体としての活動です。昨年から新たに若手指揮者のホープ小林研一郎氏を指揮者として正式にお迎えし、芥川先生とタクトを分担して頂くことにより、外部からの依頼にも応じられる演奏団体としての体制をととのえつつあります。

最近の主な活動

1971年

4月22日　第21回定期演奏会　虎ノ門ホール
管弦楽組曲第3番＝バッハ、バイオリン協奏曲＝ベートーベン、独奏：徳永二男、交響曲第3番＝ブラームス　同プロ **4月18日　千葉県文化会館**

7月1日　合唱団鯨演奏会に出演　渋谷公会堂
弦楽のためのレクイエム＝武満　徹、レクイエムニフォーレ　　指揮：小林研一郎
レクイエム＝モーツァルト

8月10日　サマーコンサート　東京文化会館
威風堂々＝エルガー　他行進曲5曲（指揮：芥川）
青少年の管弦楽入門＝ブリテン（指揮：小林研一郎）
シェーラザーデ＝R.コルサコフ（指揮：芥川也寸志）

8月20日　3Mクラブコンサート　郵便貯金ホール
上記ブリテンの代りに交響曲8番＝シューベルト

10月28日　第22回定期演奏会　厚生年金会館ホール
交響管弦楽のための音楽＝芥川也寸志、フルート協奏曲＝モーツァルト（澄川千津独奏）、交響曲第1番「巨人」＝マーラー

11月7日　東日本薬学生合唱連盟演奏会　郵便貯金会館
交響曲第9番＝ベートーベン　　指揮：小林研一郎

12月15日，17日　第九特別演奏会　日比谷公会堂
パッサカリアとフーガ　ハ短調＝バッハ－ストコフスキー、交響曲第9番「合唱付」＝ベートーヴェン
独唱：大川隆子、秋葉京子、金谷良三、田島好一

72年2月7日　新響新春特別演奏会　日比谷公会堂
パッサカリアとフーガ、Vn協奏曲＝メンデルスゾーン（独奏：黒沼ゆり子）他（指揮は特記以外全て芥川也寸志）

新響・団員募集中！ ——団員募集要領が変わりました——

入団希望者に対しては原則として、月の最終日曜日の午後、オーディションを行い、新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。
オーディションでは、課題曲(下記)、自由曲、初見のアンサンブル曲を演奏していただきます。

《課題曲》

Vn	モーツァルト	協奏曲第5第1楽章	
Vla	エックレス	ソナタ第2楽章	
Vc	ヴィヴァルディ	ソナタ第5第1楽章	
Cb	カプッツイ	協奏曲　第1楽章	
Fl	モーツァルト	協奏曲二長第1楽章	
Ob	ヘンデル	ソナタ第1第1楽章	
Cl	ウエーバー	小協奏曲　第1楽章	
Fg	モーツァルト	協奏曲　第1楽章	
Hr	モーツァルト	協奏曲第3第2楽章	
Tp	ハイドン	協奏曲　第2楽章	
Tb	R.コルサコフ	協奏曲第1, 2楽章	
Tub	ワーグナー	マイスタージンガー	

(楽譜のない方はコピーをお貸します)

《オーディション日程》

4月30日(日)　午後1時
5月28日(日)　午後1時
6月25日(日)　午後1時

《問合せ先》

① 団員をご存知の方は団員を通して。
② それ以外の方は人事担当の橋谷幸男まで。
自宅332-4075, 会社563-4451内283(キグナス石油 燃料油課)

《申込先・オーディション場所》

〒160 新宿区須賀町14大湊ビル　新交響楽団 TEL 357-5255
国電信濃町と地下鉄四谷三丁目の丁度中間、どちらからも徒歩5分、2つ目の信号、八百屋裏、CPA学院のビル4F

小林研一郎指揮・東京交響楽団特別演奏会

日時・会場　5月17日(水)　7時開演　日比谷公会堂
曲　　目　交響曲第5番「3つのレ」……オネゲル
チェロとオーケストラのためのオスティナート（**独奏＝岩崎洸**）……芥川也寸志
交響曲第5番　ニ短調　作品47……ショスタコーヴィッチ
入 場 券　S：1500円　A：1000円　B：700円　(都内プレイガイドにて前売中)
現金書留にて下記新響事務所へお申込下さい（4月30日迄)。S, Aのみ200円割引といたします。

第10回合唱団"鯨"演奏会

《ブルックナーのタ》

日　時　1972年6月6日(火)　午時7時
会　場　日比谷公会堂
曲　目　テ・デムム……ブルックナー
ミサ曲　第3番　ヘ短調（「大ミサ」）……ブルックナー
演　奏　指揮：小林研一郎　独唱：未定　管弦楽：新交響楽団
入場料　未　定

新響・登録会員募集中

＜新響の演奏を聴いてください＞

- 新響の演奏会の御案内を毎回お送りします。
- 入場券は一割引させて頂きます。
- 会員証を提示して頂けばプログラムは無料でさしあげます。

申込みは、〒160　新宿区須賀町14 大湊ビル　新交響楽団宛　ハガキにて　郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、生年月日、ご職業、もしありましたらご所属の音楽団体、楽器をやられる方は楽器名を付記してください。